

「『親の力』をまなびあう学習プログラム」ファシリテーターステップアップ研修（第4回） 府中町会場 生涯学習推進マネージャーの話

府中町の研修では、講座のふりかえりをふまえて、センターの志々田マネージャーが次の2点についてポイントを説明しました。日頃のファシリテーター活動にお役立てください。

1 サブファシリテーターの役割について

「サブファシリテーターの役割」について質問があがっていましたので説明します。

集団での活動を、複数のスタッフで運営する際に気をつけねばならないことのひとつが、指示を出す人を一人をだけに決めておくということです。指示を出す人が複数いると、参加者が最終的にだれの指示を聞けばよいのか、混乱してしまう可能性があるからです。

そのため、親プロの運営の場合でいえば、サブファシリテーターは、指示をする場面をなるべくなくし、メインファシリテーターの指示に従って参加者を支援しているという立場で行動することが重要です。

では、サブファシリテーターは何の役割をするのでしょうか。

いくつか役割が考えられますが、特に親プロのサブファシリテーターには「メンター」としての役割を特に重視してもらいたいと思っています。「メンター」とは、「メンタル」、つまり「心情」に寄り添う人のことを言います。参加者の中には、自分の意見に自信がもてなかったり、人前で話すことに緊張を感じている人も少なくありません。そのような場合、参加者の傍に座って「ふんふん」や「へ～おもしろいね」などと合いの手や、励まし・ほめる言葉を入れたり、大きくうなずいてあげる人を配置することで、参加者が安心し、どんどん話したくなるような雰囲気をつくることができます。これが「メンター」の役割の一つです。サブファシリテーターが「メンター」の役割を果たすことによって、参加者は、自分の話を興味をもって聞いてくれているという安心感のもと、自分の気持ちを開放し、講座への参加をより楽しむことができるようになります。

2 託児をしながら親子同室での講座について

多くの場合、託児サービスを伴う講座を企画することで、参加者数は増えます。お母さんの中には、託児サービスを利用することで、子どもから離れて息抜きの時間がもてると喜ぶ気持ちと、子どもに寂しい思いをさせてしまっているという罪悪感、この相反する二つの感情を抱かれていらっしゃる方も少なくありません。講座を企画する私たちは、こうした複雑な気持ちに敏感になる必要があると思います。託児サービスを用意するかしないか、用意するにしても同室か別室かについては、これからも慎重に考えていきたいテーマです。

ただし、子どもを人に預けても大丈夫だと思う経験は、長い子育て期間をがんばり続けなければならないお母さん方には必要だと思います。「親プロ」はその機会提供の場でもありますので、託児サービスについては可能な限り、ぜひ積極的に取り入れていただきたいと考えています。

「親プロ」ファシリテーターの方々が、今後も活躍されることを期待しています。